

## Topics

- 栗山副所長上席研究員が、12月4日に開催された「低炭素都市づくりシンポジウム（大阪）」（主催：公益社団法人 日本都市計画学会、一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター）のパネリストとして参加いたしました。
- 12月13日に開催する第59回NSR I 都市・環境フォーラムは、進士五十八氏（造園家、東京農業大学名誉教授）による講演「日比谷公園-110年の公園生活史とパーク・マネージメント」です。詳細は <http://www.nikken-ri.com/forum/>まで。

## 建物に係る省エネ法の基準が変わります

2013年4月から現在の建物に係る省エネ法の基準（建築主の判断基準）が変わる。現状の基準はPAL（年間外皮負荷）という指標と、設備5項目（空調、換気、照明、給湯、昇降機）のCEC（設備のエネルギー消費効率）という効率指標により建物用途毎に定量的な基準値が設定されている。改定の概略は、この設備5項目の効率基準が統合され、建物全体での一次エネルギー消費量による基準として統合されることである。

### ◆この改定により何が変わる？

#### 考え方が変わる

この改定により省エネルギー対策を導入する優先順位の考え方が変わる。現行基準は、図1のように換気等のエネルギー消費内訳が小さくても、設備項目毎に「まんべんなく対策」をするという考え方である。新基準では建物全体でのエネルギー消費量が基準となることにより、設備項目の枠

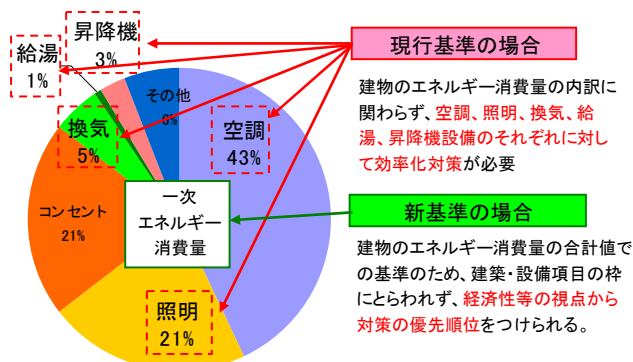


図1 一般的な事務所ビルのエネルギー消費内訳  
(参考：省エネセンター)

組みにとらわれない対策の選択が可能であり、例えば費用対効果等の視点からのみ対策項目の優先順位を決めることが可能となり、合理的な改定といえる。

#### 厳しさが変わる

今回の改定では、基準値の算出方法が変わっただけでなく、求められる対策度合いが厳格化されている。東京地域の事務室を対象とした試算では、現行基準で求められている水準に対して、対象5設備でのエネルギー消費量で15%程度低減となる。これは、新築建物の9割近くが既に現行水準を満たしている<sup>①</sup>という状況を勘案しての措置と考えられる。

### ◆今後どうなる？

#### 届出義務から適合義務へ

現状の省エネルギー法における建物に係る措置は、上述で挙げた判断基準を「最低水準の目安」として省エネルギー計画書を届出ることが義務化されているもので、その基準を満たすことは必要条件ではない。一方で、国交省、経産省、環境省の三省合同の「低炭素社会に向けた住まいと住まい方推進会議」の中間まとめ（2012.5）では、2020年程度を目途に「適合義務化」を推進することが謳われており、今回の改定はそこへ向けての準備といってよい。省エネ基準を満たさない建物が建設できない時代がそこまで来ている。

#### さらなる基準強化へ

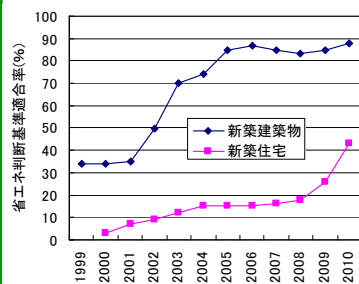
さらにその中間まとめでは、2030年に向けてゼロエネルギー住宅（ZEH）、ゼロエネルギービル（ZEB）の推進が謳われており、すでにZEH、ZEBに対する補助事業が展開されている。とはいえ、太陽光発電パネルを十分に設置することも許されない都心部などで、ZEBを実現することは物理的にも、事業的にも困難である。人口減少化の日本では、都市構造の変換が強く求められており、集約型都市構造が推進されている。一方で、インフラ投資が十分に行えなくなる郊外等において、ZEBが果たすべき役割は大きいと考えており、都市政策的な議論が今後求められる。

## 今月の豆知識

### ●豆1) 省エネ判断基準適合率

新築建築物の省エネ判断基準適合率は2003年の届出義務付けにより飛躍的に上昇し、既に9割に近い数値となっており、この水準を適合義務化しても世の中は変わらない。一方で住宅は住宅エコポイント制度の成果で2009年以降急上昇したものの5割に達していない。

日本の住宅における暖房エネルギー消費量は世界各国と比較しても低い水準といえる。それは、高効率の設備と外皮性能の高い建物の賜物と考える日本人が多いが、実は断熱性能に対する法基準は欧米と比べて低い水準にある。それにも関わらず、暖房エネルギーが小さいのは、炬燵等に代表される局所暖房装置の活用により、「寒い・・・」等と言いつつ、トイレ等に移動する日本人のがまん強さによる。



出典：国交省資料

### 筆者の紹介

林立也  
はやしたつや  
主任研究員



主要研究分野は、環境・エネルギー施策のコンサルティング。環境品質が高く、環境負荷の少ない建築・都市のあり方がテーマ。二児の父、共働き世帯の夫としては、持続可能な豊かさのあり方がテーマ。



**編集後記** 今年は残暑が長い間居座ったため、あっという間に冬本番を迎えた感がありますが、市街地にも紅葉前線が下りてきました。通勤の車窓に映る木々の赤や黄色の様子は、例年より鮮やかな気がします。(ハナ)

定期配信希望は、✉ [webmaster\\_ri@nikken.co.jp](mailto:webmaster_ri@nikken.co.jp) へ

